

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学Ⅱ	2	選択履修	R6・2	全HR
使用教科書	高等学校数学Ⅱ（数研出版）				
副教材	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C [数列 統計的な推測 ベクトル]（数研出版） 新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル]（数研出版）				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
高次方程式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・次に行われる授業の分野を予習する。 ・教科書の例題を中心に解説されるので，理解を深める。 ・教科書の練習問題，問題集，参考書，プリントなどを使って演習し復習する。 ・单元ごとに小テストを行い，その分野での理解を深める。 ・言葉，数式，グラフ（図）を用いた思考を繰り返し行い，学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高次方程式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月	図形と方程式 第3節 軌跡と領域	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。	事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用としたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
	5月	三角関数	・三角関数のグラフがかけるようになる。 ・加法定理、2倍角の公式、半角の公式等を導き、正しく使えるようになる。	・グラフを用いて三角方程式、三角不等式を考察できるようになる。 ・合成を利用して問題解決ができるようになる。	事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用としたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
	6月	指数関数と対数関数	・指数、対数の定義を理解し、基本的な計算が出来るようになる。	・指数関数と対数関数のグラフをかき、方程式、不等式への応用ができるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
		微分	・微分係数の定義を理解し、いろいろな関数の導関数を求められるようになる。	・グラフ上の点における接線の傾きを考察することによって、関数の増減を調べることができるようになる。	
7月	積分	積分の定義を理解し、いろいろな関数の積分ができるようになる。	定積分を用いて、放物線や直線等で囲まれた部分の面積を求めることができるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
2 学期	9月				
	10月				
	11月				
	12月				
3 学期	1月				
	2月				
	3月				

5. 教科担当者より

数学Ⅰに比べ、各分野における計算量が増えます。内容理解のための演習問題は不可欠であると同時に、一つ一つの問題を最後まで解き、計算のやり直しまで行うなどの学習に取り組みましょう。また、複数の分野を融合した考えに基づいた内容も増えてきます。不明な点がある場合はその時に解決することが肝心です。問題演習による解放の暗記ではなく、解答の根拠を意識しながら手を動かした学習をしましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学Ⅲ	1	選択履修	R6・2	理系
使用教科書	高等学校数学Ⅲ（数研出版）				
副教材					

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付ける。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・次に行われる授業の分野を予習する。 ・教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 ・教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 ・单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 ・言葉、数式、グラフ（図）を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月				
	7月				
2 学期	9月				
	10月				
	11月				
	12月				
3 学期	1月	関数の極限 ・分数関数と無理関数 ・関数の極限と連続性	・分数関数, 無理関数, 逆関数, 合成関数などを学び, その性質を理解する。 ・数列や関数の極限について学び, その性質を理解する。	・分数関数、無理関数等のグラフがかけようになり、方程式、不等式の解法に利用できるようになる。 ・数列の極限值について、表現、考察ができるようになる。	事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
	2月	微分法 ・微分と導関数	導関数の定義を学び、いろいろな関数の導関数が求められるようになる。	導関数を利用し、関数の極限值を求めることができ、グラフの概形がかけようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
	3月	・いろいろな関数の導関数 ・導関数の応用	置換を利用したりして、いろいろな関数の導関数が求められるようになる。	いろいろな関数についての微分法を理解するとともに、接線の方程式や、グラフの増減が求められるようになる。	事象を図形と方程式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。

5. 教科担当者より

数学の学習はとにかく自分の頭で考えて書いていくことが大切です。黒板の内容をただ写すだけでは理解はできず、当然テストでも思うような良い点は取れません。予習→授業→復習のサイクルを今一度しっかり確立させ、家庭学習も含めて毎日コツコツと学習して行って下さい。もし、どうしても分からない所があったら、先生や友達に聞くなどして必ず解決して下さい。分からないことを分かるようになることが勉強です。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学B	2	選択履修	R6・2	理系
使用教科書	高等学校数学B (数研出版)				
副教材	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C [数列 統計的な推測 ベクトル] (数研出版) 新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] (数研出版)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身につける。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> 次に行われる授業の分野を予習する。 教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列の論理的な考え方、統計についての基本的な概念や原理・法則、またデータを読み取る力を体系的に理解している。	数列の構成要素間の関係などに着目し、規則性を見だし、論理的に考察する力を身につけている。また、統計データから数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月				
	7月	数列 ・等差数列、等比数列	数列を定義し、等差数列、等比数列の性質を理解する。	等差数列、等比数列の性質を理解し、一般項や数列の和を求められるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
2 学期	9月	・いろいろな数列	数列と和の関係や、いろいろな規則性に気づき一般項を求められるようになる。	Σ 記号を理解し、数列の和を求められるようになる。また、複雑な規則性を持つ数列の一般項を求められるようになる。	事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。
	10月	・漸化式と数学的帰納法 統計的な推測	漸化式の意味を理解し、各項間の規則性より、一般項を求められるようになる。	漸化式を利用したり、数学的帰納法による証明方法を理解し、論理的に記述できるようになる。	自然数に対する証明数学的帰納法を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。
	11月				
	12月				
3 学期	1月				
	2月				
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を規則性に着目しながら、言葉による表現も意識しつつ立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようと心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学B	2	選択履修	R6・2	文系
使用教科書	高等学校数学B (数研出版)				
副教材	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C [数列 統計的な推測 ベクトル] (数研出版) 新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] (数研出版)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身に付ける。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> 次に行われる授業の分野を予習する。 教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列の論理的な考え方、統計についての基本的な概念や原理・法則、またデータを読み取る力を体系的に理解している。	数列の構成要素間の関係などに着目し、規則性を見だし、論理的に考察する力を身につけている。また、統計データから数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月				
	7月				
2 学期	9月				
	10月				
	11月				
	12月	数列 ・等差数列、等比数列 ・いろいろな数列	数列を定義し、等差数列・等比数列の性質を理解する。 数列と和の関係や、いろいろな規則性に気づき一般項を求められるようになる。	等差数列・等比数列の性質を理解し、一般項や数列の和を求められるようになる。 Σ記号を理解し、数列の和を求められるようになる。また、複雑な規則性を持つ数列の一般項を求められるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。
3 学期	1月	・漸化式と数学的帰納法	漸化式の意味を理解し、各項間の規則性より、一般項を求められるようになる。	漸化式を利用したり、数学的帰納法による証明方法を理解し、論理的に記述できるようになる。	自然数に対する証明数学的帰納法を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。
	2月	統計的な推測	統計処理上、必要な数値計算ができるようになる。	統計データからそれぞれの着眼点で、グラフ化し、論理的に捉えることができるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
	3月	数学と社会生活	身のまわりに存在する数学の概念を理解し、考察できるようになる。	実生活への数学の活用を考え、考察を深める。	事象を数列の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を規則性に着目しながら、言葉による表現も意識しつつ立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようと心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学C	2	選択履修	R6・2	理系
使用教科書	高等学校数学C (数研出版)				
副教材	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C [数列 統計的な推測 ベクトル] (数研出版) 新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] (数研出版)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身につける。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> 次に行われる授業の分野を予習する。 教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返し行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ベクトルの論理的な考え方、複素数平面についての基本的な概念や原理・法則、また平面上の様々な曲線を描き、処理できる力を体系的に身につけている。	ベクトルを成分表示したり、位置ベクトルで図形および空間を論理的に考察する力を身につけている。また、複素数平面や曲線のグラフをかき、数理的に考察する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月				
	7月				
	9月				
2 学期	10月	平面上のベクトル 空間座標とベクトル	<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルを定義し、その演算ができるようになる。 ベクトルを用いて平面上の図形を考察できる。 ベクトルを用いて空間上の図形を考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ベクトルを利用して三角形の面積等を求めることができるようになる。 位置ベクトルを利用して、図形を考察できるようになる。 空間内の点を位置ベクトル、成分表示を利用することによって的確に捉えることができる。 	<p>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている</p> <p>事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。</p>
	11月	複素数平面	複素数を極形式で表して、ド・モアブルの定理等を用いて計算することができる。	複素数平面上の点の移動を理解し、写像的な考え方ができるようになる。	複素数平面での点の平行移動や、回転移動を考え、粘り強く数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
	12月	平面上の曲線 数学的な表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 複雑な関数を、媒介変数表示するなど、工夫して捉えることができるようになる。 行列を用いた一次変換の概念を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな曲線の特徴を捉えて、平面上に曲線を描くことができるようになる。 いろいろな事象を数学的な考え方で分析できるようになる。 	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
3 学期	1月				
	2月				
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を数式や図を用いて表現しつつ、言葉による表現も意識しながら立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようとして心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	年度・学年	コース・HR
数学	数学C	2	選択履修	R6・2	文系
使用教科書	高等学校数学C (数研出版)				
副教材	新課程 教科書傍用 クリアー数学Ⅱ+B+C [数列 統計的な推測 ベクトル] (数研出版) 新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B+C [ベクトル] (数研出版)				

1. 科目の目標

(1)	(2)	(3)
<p>事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付け、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈できる能力を身につける。</p>	<p>数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につける。また、現象を数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。</p>	<p>数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

2. 学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・次に行われる授業の分野を予習する。 ・教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。 ・教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。 ・单元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。 ・言葉、数式、グラフ(図)を用いた思考を繰り返すを行い、学習内容の理解を深める。

3. 科目の評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ベクトルの論理的な考え方、複素数平面についての基本的な概念や原理・法則、また平面上の様々な曲線を描き、処理できる力を体系的に身につけている。</p>	<p>ベクトルを成分表示したり、位置ベクトルで図形および空間を論理的に考察する力を身につけている。また、複素数平面や曲線のグラフをかき、数理的に考察する力を身につけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。

4. 単元の学習計画（単元ごとの評価規準）

学期	月	単元 (学習内容)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む姿勢
1 学期	4月				
	5月				
	6月				
	7月				
2 学期	9月	平面上のベクトル ・ベクトルと演算 ・ベクトルと図形	・平面上のベクトルを定義し、その演算ができるようになる。 ・ベクトルを用いて平面上の図形を考察できる。	・ベクトルを利用して三角形の面積等を求めることができるようになる。 ・位置ベクトルを利用して、図形を考察できるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
	10月	空間座標とベクトル	ベクトルを用いて空間上の図形を考察できる。	空間内の点を位置ベクトル、成分表示を利用することによって的確に捉えることができる。	事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。
	11月	複素数平面	複素数を極形式で表して、ド・モアブルの定理等を用いて計算することができる。	複素数平面上の点の移動を理解し、写像的な考え方ができるようになる。	複素数平面での点の平行移動や、回転移動を考え、粘り強く数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。
	12月	平面上の曲線 数学的な表現の工夫	複雑な関数を、媒介変数表示するなど、工夫して捉えることができるようになる。 行列を用いた1次変換の概念を理解する。	いろいろな曲線の特徴を捉えて、平面上に曲線を描くことができるようになる。 いろいろな事象を数学的な考え方で分析できるようになる。	問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
3 学期	1月				
	2月				
	3月				

5. 教科担当者より

単なる計算練習や繰り返しの問題演習だけでは、安定した学習効果を得ることが難しい内容が多く含まれます。様々な事象を数式や図を用いて表現しつつ、言葉による表現も意識しながら立式の根拠の理解に励みましょう。また、日常に起こる現象を数学で表現する面白さに触れ、多くの考えを習得しようとして心がけましょう。